

よ う こ そ

第 19 号

浄土真宗本願寺派

円光寺

〒870-0108

大分市三佐3-15-18

TEL097-527-6916

FAX097-527-6949

みんなでウォーキング



(上) 荻野邦彦大分県ウォーキング協会会長(写真先頭)にウォーキングの指導をしていただきました

(5月17日、三佐中央公園)

(左) 早朝からいい汗かいて気分も最高!!

(6月21日、円光寺山門)



この道を一緒に歩いていきましょう

6月21日(月)夏至の日の朝早く、同行七人でウォーキングをしました。今年で三回目。朝五時にお寺を出発、約一時間かけて三佐をぐるり一周してお寺に戻り、六時の梵鐘を聞いて、六時半から一緒に朝事のお勤めをしました。

今日もこのいのち恵まれ、朝一番に体を動かし、お念仏を申して、一日をスタートさせていただくことの有難さ、尊さを身をもつて感じたことです。ウォーキングが今、注目されています。健康志向の一つに歩くことがいいと言われますが、元来人間の体は歩くようにできており、ことさら健康のために歩かなければならないのではなく、生活そのものがウォーキングであり、生きることは歩くことであるともいえます。

私たちは人生という道を歩いています。その道は人それぞれ違います。そして平坦な道ばかりではありません。上り坂もあれば下り坂もあり、まっすぐな道もあれば曲がりくねった道もあります。また晴れの日もあれば雨の日もあり、風の日もあれば雪の日もあります。

その道すがら友と出会い、共に歩む道もあります。時には厳しい道のりも、友に支えられ励まされて乗り越えていきます。

仏教は迷いの私がつとりの仏さまに成らせていただく成仏道を説きます。私たちの成仏道はお念仏の道です。私がつくる道ではありません。阿彌陀さまがお浄土から「お念仏申して来いよ」と開かれた道です。お釈迦さまの「お念仏申して往けよ」の教えを聞き、南無阿彌陀仏とお念仏申して、往生浄土のこの道を歩ませていただきます。あなたもようこそ、一緒に歩みましょう。

葬儀のあり方を考える

葬儀のかたちが変わってきています。東京首都圏では「直葬」という葬儀が急増し、私たちの周りでも「家族葬」なるものが増えてきました。また「葬式は、要らない」という本が今、ベストセラーだといっています。

大切な方との一度っきりの最後のお別れ、悲しみのご縁を、あなたはどのように迎えますか。

家族と共に最後の夜を

お通夜は家族親族身内の方で過ごす最後の夜の営みです。同じ屋根の下で共に暮らしてきた家族です。ご一緒に夕方のお勤め(お夕事)をして、家族をいつも見守ってきてくださったお家のお仏壇の阿弥陀さまにお礼を申します。お通夜は夜伽ともいいます。亡き人を囲んで、有縁の皆さんと夜を通していろんな思い出をお話ししましょう。

お寺で通夜葬儀が

できます

通夜と葬儀は本来意味合いが

違います。今は「お葬式を二回する」と言われるほどにお通夜がお葬式のようになって、弔問者も多く通夜も葬儀も葬儀社で行うことが一般的になりました。

円光寺では十年ほど前までお家でお通夜を、お寺でお葬式をしていました。門徒スタッフによる自前の葬儀で経費も安く大変好評でしたが、スタッフの高齢化と葬儀社のようなサービスができないなどの理由でずつと取り止めてきました。その間も「お寺でお葬式をしたい。できたらお通夜もしてほしい」との声があり、このたび葬儀社を入れて、あんのん館でお通夜を、本堂でお葬式を行うシステムをつくりました。

お寺の阿弥陀さまに

お礼をして

お寺での葬儀は、浄土真宗のみ教えを中心に行います。平生の仏さまのお荘厳を基本に華美にならず、葬儀社には必要最小限のサービスをしていただきます。要は、生前お寺にご縁のあったご門徒さんですから、お寺の

阿弥陀さまに最後のお礼をして、阿弥陀さまのお浄土に往生させていただくということですが、

浄土真宗の葬儀はどうあるべきか、門徒として葬儀をどう考えるのか。円光寺では「葬儀を考える会」を随時開いて、お寺で行う葬儀について詳しく説明し、皆さんのご相談にも応じています。

あんのん連続法座にどうぞ

あんのん館で連続法座を開いています。昨年9月から15回連続で「親鸞聖人のご生涯」を学び、5月6日に修了しました。6月からは「親鸞聖人のみ教え」を学んでいます。お誘い合わせ受講してください。



「親鸞聖人のご生涯」連続法座
修了生の皆さん (5月6日、あんのん館)

世々生々

無縁社会とは、すごい言葉である。そもそも社会とは人と人が構成する集団の意味であり、無縁とは相反する言葉であるからだ。しかし無縁社会と言われて肯けるのは、私たちのこの社会が如何に殺伐として渴いたものになってしまっているかということである

◆縁あつて、私たちはこの人間界に生まれて来た。ヒトが人になり人間に成っていく人間成長のプロセスが人生だといわれる。果たして、私は人間か。人間とは人の間と書く。人と人とのつながりのなかに生きるからこそ人間といえるのではないか◆人と人とのつながりが薄くなった、切れてしまっているときさいわわれる。もちつもたれつ、お互いに支え合って生きてきた、先人の生活の知恵が見失われている◆確かに私たちの生活は便利で豊かになった。しかしそこに生きる喜びを感じるどころか、孤独感にさいなまれ人生の道行きに大きな不安をかかえる人が多い◆無縁社会を想う。仏さまのご縁に生きとし生けるものすべてみんながつながっていると、仏法を聞かせていただくと、人間に生まれた本当の意味をたずねていきたいものである。

お朝事「法話」より

「いつてらっしゃい」

最近のお葬式には弔辞が少なく、人と人のつながりが薄くなったことを表す一例で、少し寂しい気がします。弔辞に代わって多くなつたのが家族の別れの言葉です。

昨日は98歳のおばあちゃんのお葬式でお孫さんがお別れの言葉をおくられました。

「おばあちゃんの家に行くときまってお気に入りの詩を詠んで聞かせてくれましたね」と、島崎藤村の「小諸なる古城のほとり雲白く遊子悲しむ」と朗々と詠まれました。いいなあと思えました。藤村の詩がいかにかいうことではありません。藤村の詩には違いありませんが、そのままおばあちゃんの言葉としていただきました。これから先この詩を口ずさむ度におばあちゃんのことを思い出さずだなどと思うと、何かうれしくなりました。遺言です。遺す言葉です。皆さんはどんな言葉を家族に、周りの人たちに遺しますか。私たちが阿弥陀さまは言葉になつた仏さまです。南無阿弥陀



常朝事同行の皆さんで藤の花見に行きました(5月3日、西寒多神社)

仏の六字の名号です。この六字に私を救うてくださる一切の手立てが成就されているとお聞かせいただきました。「我が名を称えてくれよ」と喚び続け、お念仏申すところに「私がいるよ、大丈夫だよ。我にまかせよ、必ず救う」とおはたらきの仏さまに成つてくださいました。

お念仏申させていただきました。そしてお念仏が皆さんの遺言になつたら、とても素敵なことだと思えます。

そのお別れの言葉の最後に「おばあちゃん、おじいちゃんのところへいつてらっしゃい」と結ばれました。何かあたたかい気持ちになりました。おばあちゃんを送る、家族親族皆さんのお気持ちいっぱいだと思いますが、おじいちゃんのところへ、どこなのでしょう。

ご案内

◆常例法座

7月16日(金) 10:00~11:30

◆子ども会サマースクール

8月3日(火)~4日(水)

◆初盆会・盆おどり大会

8月12日(木) 19:00~21:00

◆全戦没者追悼法要

(平和を願う鐘つき)

8月15日(日) 11:00~12:00

◆秋彼岸会

9月22日(水) 11:00~14:00

同 19:30~21:00

9月23日(木) 13:30~15:00

◆敬老会

10月1日(金) 11:00~13:00

“月に一度は

お寺参りしましょう”

※詳しくは『寺通信』でご確認ください。

あの世と、つたり、天国、冥土、草葉の陰、黄泉の国などともいいますが、私たちは阿弥陀さまのお浄土と聞かせていただきます。お浄土は、阿弥陀さまがすべてのいのちを救いとると建立された仏国です。日々の生活の中で、私たちは学校に、職場に、「いつてらっしゃい」と家族を見送り、見送られます。送るところが互いに確認できるから「いつてらっしゃい」と安心して見送れるのです。命終えたとき、「いつてらっしゃい」と安心して見送れるところをお浄土といただきます。私たち凡夫の心情でそれぞれが思うところではなくて、阿弥陀さまが決めてくださったお浄土だから確かなのです。そのお浄土にこの私も参らせていただきます。先に往かれた



あんのん健康教室

第2・4水曜日(9:30~11:00)

どなたもご参加ください(4月14日、あんのん館)

方もお浄土ならば、後に残つたこの私も同じお浄土に往生させていただきます、懐かしい方々と再会することが出来る。南無阿弥陀仏のおはたらきの頼もしさをまた思わせていただきました。(4月16日)

雨の日のご縁も、いいですね

今年の親鸞聖人降誕会(5月23日)は終日雨のお天気で、いつもの境内でのバザーを庫裡に変更して行いました。心配していた人も例年並みで、特に用品などの物品バザーにはご門徒ばかりでなく近所の方がたくさん集まり本堂にお参りしてください。よいか縁になりました。



初参式(5月23日)
甲斐ゆうまさん、おめでとう



大盛況のバザーのようす
(庫裡玄関)



今年は海原方面を白象パレードしました
(4月7日)

花まつりの会



ほれほれと仏法聴聞(5月23日)
福澤憲昭講師(田川・照安寺住職)



新一年生を祝う会(4月7日)
本堂前特設花御堂前で



工藤前会長を囲んで
(左から)上野さん、橋本さん、御手洗さん

工藤さん、ありがとう
5月22日(土)の仏教婦人会総会で役員改選があり、工藤喜代子会長に代わり橋本玲子さんが新会長に、副会長に上野信子さん、会計に御手洗瀬枝さんが選出されました。これからよろしくお願いします。

四月から大智が寺に帰り法務を手伝ってくれるようになって、月参りを任せることにした。34年前の私がお参りさせていただいた。お茶をよばれ、話し込むこともあった。「新院さん」とやさしく接してください。お育てをいただいた。本堂にかけがえのない有難い時間だった。さてこれからは、少し楽ができると思っていたが、相変わらずあれこれバタバタやっている。どこまでもゆつくりできない「ご院家さん」である。

あ と が き



春彼岸会のご縁に、大智帰山並びに一心得度奉告のお勤めをさせていただきました(3月21日)

宜しくお願い致します